

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
のびのび遊ぶ元気な子	愛されて好きな遊びを楽しむ	子どもが身近な人や物、自然に関わる中で自分の好きな遊びを見つけ満足するまで遊ぶ	子どもが楽しんでいることが更に楽しくなるような環境作りに取り組み、子どもたちが意欲的に遊べるように発達に合った環境を用意した	A	A 8・8・6 B 11・3 c 0	園関係者評価委員から	・職員会議はもちろん、定期的にクラス会議を行い、一人ひとりの発達や課題について共通理解すると共に、保育の計画について具体的に話し連携を取り合い、同じ思いで保育を進めていけるようにする ・わらべうたや季節の歌、手遊び、ふれあい遊び、手作り玩具等乳児園ならではの遊びの提供を継続して行う ・園内、園庭共にこどもの発達に合った環境、主体的に遊べるを改善していく
		子どもが丸ごと自分を受け入れられて、自分の思いを十分出す	子どもの声や思いに寄り添い、十分に気持ちを受け止め、肯定的な声掛けをすることで子どもたちが安心して過ごせるようにした	A	A 100 B 0 c 0		
		身近な自然に触れ、開放的な気持ちを味わう	登呂公園などに出掛け思いきり身体を動かせる機会や、生き物や草花など身近な自然に触れて季節の変化を感じられるような機会を計画的に作った	A	A 8・4・8 B 9・0 c 0・5		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)				
1 子ども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて保育が進められ、子どもの育ちが見られる	一人ひとり発達の差がある事を理解し、学年目標をもとに職員間で話し合いそれぞれの目標を具体的に立て保育を進めた	A	A 75・0 B 11・4 C 2・3	園関係者評価委員から (保護者より) ・今ニュースで保育園の事を観たり聞いたりしますが、そんな中で安心して登園できるのも先生のおかげです	・職員会議・5分間会議・園内研修で、クラスの現状を共通理解し、一人ひとりの課題を明確にして保育を進める				
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	在園時間や発達過程を踏まえ、安定した気持ちで園生活が送れるように、生活の流れを作っていく	B	A 84・3 B 9・0 c 0			・職員間で情報伝達を確実にし、保護者も子どもたちも安心して過ごせるようにする ・子どもの姿やクラス全体の課題について対応方法や改善策をクラス会議で話し合い、園全体でも確認し実践していく			
		(3)環境を通して行う教育及び保育	保育者が連携して、園庭や園外環境を有効利用し、運動や自然に触れる体験を十分できるようにする	A	A 95・4 B 4・5 c 0			・参加会で園庭を見てびっくりしました。大人の私でも遊びたくなりました	・子どもと一緒に遊ぶ中で気付いた事を発信し、次の園庭の改善につなげる。今の子どもに合った環境を作る。フリー職員だけでなく、職員が交代で毎月1回園庭整備をする。		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練に取り組み、非常時の対応を身につけていく	毎月地震、火災の避難訓練や、不審者訓練を様々な想定で行い、職員の役割を確認したり、適切な判断や安全な誘導の仕方を反省し次回に生かすようにした	A	A 81・9 B 13・6 c 0・1	・すぐメールで門が開いていたなど、注意喚起をしてもらえることから安全面にも配慮していることを実感	・様々な想定での避難訓練を繰り返し、職員一人ひとりが考えて行動する力を身に付けていく				
		(1)健康教育の充実	食事・排泄・着脱・清潔・睡眠等基本的な生活習慣が見につくよう、家庭と連携をとりながら、個に合った援助をする	一人ひとりの発達や生活リズムに配慮し、家庭での様子も考慮しながら基本的な生活習慣が身に付くように援助している。励ましたり、やり方を伝えたり、できたことを褒めたりし、自信や意欲につなげていった	A			A 70・4 B 11・4 C 2・3	・家庭と連携し子どもの姿を伝え合い、基本的な生活習慣が身に付くような援助をする ・その子の課題を明確にし、スモールステップでつきたい力を遊びの中で獲得できるようにする		
			(1)支援体制づくりの推進	1人1人が生き生きと遊び、生活できるよう、発達や特性に合わせた支援をする	発達に気になる子、ゆっくりな子についてケース会議で話し合い、支援方法を考えたり成長発達を報告。話し合ったことは全職員で共有した			A	A 93・2 B 6・8 c 0	・車の中で登園を嫌がっても園に着けば、笑顔で遊び始める姿からここが楽しい場所である事を感じます	・子どもの支援方法、保護者への対応など職員間で共有し合い、研修で得た知識を実践していく ・実際に保育の中で支援に困ったこと等具体的な事例を挙げ、職員間で話し合う
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自己の役割(分掌)に責任を持ち協力して運営を進める	分掌の年間計画を基に進めたが、スムーズにいかないこともあった。定期的に進捗状況を報告し、計画を見直したり変更したりして進めていった	B	A 90・9 B 9・0 c 0	・季節に合った展示物があり園の雰囲気優しく穏やかにしている	・分掌の項目や内容を見直す ・園芸、栽培はクラス担任と連絡を取り合い、計画を進める。保育者が、水をかける等優しくおんごりに世話をする姿を子どもに見せ、身近な動植物を大切にすることを育んでいく				
		6 研修	(1)研修体制の充実	教材研究や園内公開保育を行い、子どもの理解を深め、遊び環境を変化させていく	園内公開保育や園内研修を行い、視点に沿って意見を出し合うことで子ども理解を深めた。環境を見直し、子どもたちの遊びに合わせて再構築した			A	A 63・6 B 22・7 c 0 D 2・3	・私が知らない絵本や歌などを子どもが知っていることから、日々先生達が子どもに合った物や事柄について勉強している事を感じます	・研修主任を中心に、公開保育を進めながら職員全員が公開保育に参加し意見や感想を出し合い園全体で保育のレベルアップを図る
				7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実			安全点検を実施し、想像力を働かせて安心安全な環境を作る	ヒヤリハットを記入し、園内の見取り図に付箋で貼る事で誰もが危険箇所を知り、対策や改善策を考えて環境の見直しをした	B	A 95・4 B 4・5 c 0
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と保育者が子どもの育ちを共有し、喜び合う	日々の連絡ノートの記入、送迎時の会話を通して子ども一人ひとりの様子を丁寧に伝え、家庭と連携を取りながら子どもの育ちを共有した。月1回の参加会で実際に待機児童園での様子を見てもらうことができた			A	A 90・9 B 6・8 C 0	・クラスだよりや園だよりには写真がたくさん。可愛いエピソードも書いてくれるので子どもの様子が分かります	・参加会に出席できない保護者には定期的に面談する。子どもの良い点や可愛いエピソードを園内で共有し、園全体で保護者に伝え成長を喜び合う ・お散歩マップの更新をしていく		
		9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	共生地区にある園や施設との連携を図り、情報交換を進める	連携園である登呂こども園の2歳児と一緒に遊んで交流したり、子育て支援センターや児童発達支援センターももとも連絡を取り合った	B	A 25・0 B 25・0 c 37・5 D 12・5	・登呂こども園の子と一緒に遊んだことを知り嬉しく思った	・他園と連携し、インクルーシブな保育を踏まえた交流を計画的に行い、様子を発信していく		
				10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域との関りを大切にし、近隣に散歩に出掛けた時は明るく挨拶をかわすなど交流を重ねる	散歩の途中で出会う地域の方に挨拶をしたり、話をしたり、手を振ったりして交流した	B	A 90・0 B 9・1 c 0	・散歩中で近所の方に挨拶できて褒められたことを聞きました。先生達が明るく挨拶してくれているからこそだなとありがたかったです	・地域とのつながりを大切にし、散歩などで地域の方と触れ合った場面などを保護者にも発信していく